

中間評価報告書

研究課題名: 材料安全使用のための材料リスク情報プラットフォームの開発に関する研究

研究責任者: 八木晃一 材料基盤情報情報ステーション長

評価委員会日時: 平成15年11月17日14時—17時

評価委員会委員長及び委員名:

時政勝行 近畿大学生物理工学部 教授(委員長)

石丸 裕 住友化学工業(株)生産技術センター 所長

藤山一成 (株)東芝 電力・社会システム社電力・社会システム技術開発センター 主幹

記入年月日: 平成15年12月12日

評価の観点	評 価 結 果			
[課題の設定] 中間評価段階における新規性・独創性、科学的・技術的重要性、社会的・経済的重要性、国家・社会・産業界の要請、新規産業分野、緊急性など	本課題は、社会的・経済的に見て重要なプラントや構造物のリスクに関するものであり、中間評価段階において、その具体的な姿が明らかになったこともあって、その新規性とすぐれた独創性がより顕著となった。			
[課題への取組状況] ・研究手法・実験方法の新規性・独創性、精密さ・緻密さ、妥当性 ・研究・実験の進捗状況の観点からみた、年次計画、予算規模、人員規模、研究設備購入計画、計画外事象の発生の有無とその対応の適否 ・推進・運営体制の観点から、研究責任者の裁量、国際的展開など	プラットフォームとデータベースをインターネットで公開できるところまで進んでいる点は高く評価でき、今後の展開に大きな期待を抱かせてくれる。プラットフォームのメインシステムの完成度向上とともに、一部の項目に偏ることのないバランスの取れた推進を心がける必要があると感じた。 最終の2年間は、現時点におけるプラットフォームのメインシステムの構築を踏まえて、明確な目標を掲げて、推進していただきたい。また、そのために必要な内容はフレキシブルに取り入れるという柔軟な運営をお願いしたい。とくに、国内外においては、個々のサブシステムだけでなく、プラットフォームの全体像の議論を展開してはどうか。 具体的な故障・事故などのデータの収集には、特に力を入れていただきたい。			
[研究の成果] 研究成果の内容について、中間段階として期待通りの成果が十分出ているか？ 研究成果の発表状況は十分であるか？	プラットフォームのメインシステムの構築は期待通りの成果といえる。とくに、事前評価において期待されていた、「内外における学問の進歩・発展、新しい考え方、新技術を常に積極的に導入し、自ら更新し得る能力」の具備は十分期待できる。 リスク評価については、その方法に関する内容の充実、レベルアップが今後の課題である。特にこの方面の学会に積極的に参加して情報交換を行うようにして最新の情報収集に努められたい。			
[総合評価] 今後の研究方向、発展性、応用分野など	新規性、独創性のある課題であり、国家、社会、産業界のいずれからも要請の大きい課題である点は、中間段階においても変わらない。これまでの研究実績は、今後の大きな発展性を期待させるに十分なものである。 今後、最終的な使用方法を考えた全体のスコープの再チェックをお願いしたい。使用者のレベルに応じた内容、各種リスク評価手法（リスクの概念とその評価のやり方）に対応して材料リスク情報の使い方がいかに異なるかなどの解説やプラットフォームの有用性を示す使用方法のモデルの提示などは、特に必要と思われる。			
右記のS,A,B,Fに○を付けてください。	S: 当初の計画以上に成果を上げており、計画を前倒しして継続すべきである。	A : 当初の計画通り継続すべきである。	B: 計画を変更した上で継続すべきである。	F: 計画を中止すべきである。